

大島商船高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	校内練習船実習
科目基礎情報				
科目番号	0058	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	1	
教科書/教材	大島丸実習ノート			
担当教員	中村 泰裕, 浦田 清, 浦田 数馬, 山口 伸弥			
到達目標				
1. 船内において、規律を守り安全に行動することができる。				
2. 船橋航海当直の概要が理解できる。				
3. 操舵号令と操舵要領が理解できる。				
4. 船舶推進プラントおよび電気系統の概要が理解できる。				
5. 機関室内主要機器の概要が理解できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	船内において、規律を守り安全に行動することができる。	船内において、規律及び安全について理解できる。	船内において、規律を守り安全に行動することができない。	
評価項目2	船橋航海当直の概要が説明できる。	船橋航海当直の概要が理解できる。	船橋航海当直の概要が理解できない。	
評価項目3	操舵号令と操舵要領が説明できる。	操舵号令と操舵要領が理解できる。	操舵号令と操舵要領が理解できない。	
評価項目4	船舶推進プラントおよび電気系統の概要が説明できる。	船舶推進プラントおよび電気系統の概要が理解できる。	船舶推進プラントおよび電気系統の概要が理解できない。	
評価項目5	機関室内主要機器の概要が説明できる。	機関室内主要機器の概要が理解できる。	機関室内主要機器の概要が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	構内練習船実習の目的は、練習船の運航実務を実際に体験することにより、座学課程で学習中の船舶運航に関する知識を実践の場で活かし、船舶職員として必要な技能ならびに行動習慣を身に着けることである。			
授業の進め方・方法	実習日課は、「実習計画書」に書かれた時間割にしたがっておこなう。 実習態度、課題、下船試験により評価する。 前期 1泊2日、後期 1泊2日			
注意点	(1) 実習には万全の体調で臨み、積極的に取り組み。 (2) 号令、アンサーパック、報告は大きな声ではっきりと行う (3) 「安全第一」に心がけ、指導教官及び乗組員の指示に従う (4) 事故防止のため、服装、頭髪を整え、定められた保護具を着用する (5) わからないことは早めに質問する (6) 乗組員の許可なく、スイッチ、バルブ、開口部などの操作を行わない			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	船舶要務	
		2週	乗船中の一般的注意事項を遵守できる。	
		3週	船内規律を守り、集団生活をおくることができる。	
		4週	船舶衛生、船内職務分掌について理解できる。	
		5週	船体および機関の設備概要、主要目について理解できる。	
		6週	船橋航海計器の概要が理解できる。	
		7週	海図の見方が理解できる。	
		8週	船橋航海当直の引継要領が理解できる。	
後期	2ndQ	9週	操舵号令と操舵要領が理解できる。	
		10週	クロススペアリングによる船位測定の要領が理解できる。	
		11週	出入港準備、係留・解らん作業の概要が理解できる。	
		12週	主機関の運転準備、終了作業の概要が理解できる。	
		13週	推進プラント、電気系統の概要が理解できる。	
		14週	機関室、制御室主要機器の概要が理解できる。	
		15週	配管諸系統の概略が理解できる。	
		16週	機関区域での安全上の注意事項を遵守できる。	
後期	3rdQ	1週	機関要務	
		2週	基本的な圧力、容量の単位換算ができる。	
		3週	救命胴衣を正しく着用できる。	
		4週	総員退船部署の概要が理解できる。	
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		

	11週						
	12週						
	13週						
	14週						
	15週						
	16週						

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	70	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	20	0	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0